８．編集後記

リエゾンセンターの「起業教育」という仕事に携わってもうすぐ丸２年。「起業教育」という言葉が自分の中に少しずつ浸透してきていますが、誰かに説明したり、何かで表現できるレベルにはまだまだ達していないと感じた１年でした。

さて、今年度の私の「起業教育」に関わる仕事を振り返ってみて一番に思いつくのが、ビジネス・アイディアコンテストに応募した学生達の商品化へのチャレンジのサポート。アイディアを「かたち」にするまでの道のりは長く、最終段階にはまだ辿りついていませんが、学生と一緒にアンケートの内容を考えたり、幼稚園にアンケートを取りに行ったり、企業での会議に参加させていただいたり、この仕事に就いてなければできなかった経験をいくつもしました。

学生達の能力もモチベーションも様々。私が学生達に「できること」の少なさに焦ったりしながら、小さなことでも「できなかった」ことが「できた」時に学生の成長を身近に感じることができると同時に、お互いに一歩ずつ前に進んでいる気がします。

また、本コンテストにおける「商品化」を目指す意味について考える機会もありました。『商品化を目指す目的は、学生から商品化できるアイディアを募集することではなく、学生がビジネスインターンシップに挑戦するモチベーションを高めるとともに、自分のアイディアが「かたち」になった喜びを感じてもらうこと』ということを起業教育委員会の先生に教えていただき、その認識の重要性を感じました。アイディアが「かたち」になるまでのプロセスや苦労を学生達が体験して、「ヒト」や「モノ」を見る力や逆境を乗り越える力を少しでも身につける機会になればいいと思います。

それから昨年は台風の影響で中止になった起業教育研究会と連携イベントでしたが、今年は天候にも恵まれ、開催することができました。

プログラムの前半は、「なんでやねん」と考えることの重要性やそこから生まれたヒット商品についてセキセイ株式会社　西川会長による講演や指宿市立指宿商業高等学校で実践している「株式会社指商」の活動報告、後半は２つの分科会に分かれて起業教育ワークショップを実施し、グループごとのディスカッションに取り組んでいただきました。大阪府内はもちろんのこと遠方から参加いただいた先生方ありがとうございました。また、開催にあたり、ご協力いただきました講師の方々及び企画・運営に携わっていただいた

起業教育研究会企画委員会の先生方にも感謝いたします。

現在、起業教育研究会は次年度開催に向け、より良い内容にするためにプログラムを企画中です。詳細が決まりましたらHP等でご案内させていただきます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

これからも高大連携の取組みであります「起業教育研究会」、「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」を皆さまと共に企画・運営していきたいと考えています。先生方の忌憚のないご意見・ご感想をいただき、私たち自身も成長していければと思っています。

大阪商業大学リエゾンセンター
社会連携・研究支援課　田中佐登子